平成 28 年度　第１回　茅ケ崎市バリアフリー基本構想推進協議会　市民部会　会議録

議題	１　部会長・副部会長の選出について ２　部会の取り組みについて ３　意見交換
日時	平成28年11月25日（火）　15：00～17：00
場所	茅ヶ崎市総合体育館　２階会議室
出席者氏名	部会長　：斉藤　進 副部会長：海津　ゆりえ、藤井　直人 部会員　：篠原　徳守、水島　修一、柏崎　周一、長　貴史、瀧井　正子、五十嵐　優子、上杉　桂子、鈴木　実、高野　幸子、湊　里香、瀬川　直人 （欠席委員） 部会員　：矢野　竜也 （事務局） 都市部都市政策課、八千代エンジニヤリング㈱
会議資料	資料１　部会の取り組み（案） 資料２　意見交換用シート 資料３　茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会アンケートへのご協力のお願い 参考資料１　心のバリアフリーに関するご意見
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	１名

（会議の概要）

１ 開会

○山本課長補佐：それでは、定刻になりましたので、平成 28 年度第１回茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会を開催させていただきます。本日は傍聴人の方がいらっしゃいます。本会議は原則公開となっておりますのでご承知おきください。傍聴人の方のご発言はできませんのでよろしくお願いいたします。本日は、部会員 15 名中 12 名出席であり、協議会要綱第 6 条に基づき会議が成立していることをお知らせします。なお、高野委員、上杉委員の 2 名は遅れての出席とご連絡をいただいています。

２ 議題

（１）部会長・副部会長の選出について

○山本課長補佐：部会長・副部会長の選出について、協議会と同様に、部会長に斉藤委員、副部会長に海津委員、藤井委員にお願いすることを事務局より提案させていただきたいのですがいかがでしょうか。

○部会員：異議なし。

○山本課長補佐：ありがとうございます。それでは、斉藤部会長より就任のご挨拶をいただきたいと思います。

○斉藤部会長：部会長にご推挙いただきました斉藤です。どうぞよろしくお願いいたします。第１回協議会で、市民部会の中で当事者視点からバリアフリーのまちづくりをどう進めていけるか、あるいは市民の多くの方に参加・協力いただきながら理解促進を進めていくという役割があるので、忌憚ないご意見・ご提案をよろしくお願いいたします。神奈川県のバリアフリー県民会議の委員を仰せつかっており、今日の午前中に会議に出席しましたが、「ともに生きる社会かながわ憲章」というものをご存知でしょうか。あまり知られていないということが問題で、ただ単に印刷物ができたということにならないよう、一人一人が自分のことだという意識を持っていただくことが重要です。市民部会でも、一人一人が自分たちの問題としてきちんと理解し、バリアフリーの社会をつくっていくという取り組みをみなさまと一緒に進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

（２）部会の取り組みについて

○斉藤部会長：市民部会を進めるにあたり、議事録に署名していただく方が必要になりま

す。名簿の順にお願いしていきたいと思います。名簿の順に行きますと、篠原委員からお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

〇委員：異議なし。

〇斉藤部会長：それではよろしく願いします。

〇斉藤部会長：資料の説明をお願いします。

〇宮崎主任：資料１（部会の取り組み（案））に沿って説明

〇斉藤部会長：ご質問や確認事項があればお願いします。

〇鈴木委員：団体アンケートの実施にあたり、会員に配付する際、墨字だと難しいので点訳が必要となります。そのあたりの対応を教えてください。

〇宮崎主任：平成 26 年度にアンケートをお願いした際には、ヒアリングに同席させていただいた際にお話しを伺いました。今回もそういった対応を検討させていただきたいと考えております。

〇鈴木委員：日時を設定して来ていただくことは可能でしょうか。

〇山本課長補佐：平成 26 年度のアンケート時は、我々が福祉会館にお伺いし、質問項目ごとに説明させいただき、補助もつけながらアンケートを回収させていただきました。団体ごとの事情等を考慮し、出向いて説明をさせていただくなど個別に対応していきたいと考えております。

〇湊委員：平成 26 年度のアンケートとはどこが異なるのでしょうか。また、どのように結果を活用するのでしょうか。

〇宮崎主任：平成 26 年度のアンケートは、鉄道駅や道路など限定的にお聞きするかたちをとっていましたが、心のバリアフリーは共通事項ですので、今回のアンケートでは課題別に整理したうえで、場所を特定できるように記入欄を設けております。また、結果については、今後の検討資料として活用していく予定です。

〇湊委員：同じような内容にも思えますが、聞こえない者としては、アンケートを渡すだけでなく、説明や手話等もあわせて検討してほしいです。また、文字が書けない方もいらっしゃるので少し時間がかかるかもしれないです。

〇宮崎主任：承知しました。

〇斉藤部会長：みなさまで議論した結果を実践に結び付けていきたいと思います。また、実践で課題を明らかにしながら継続的に進めていけると良いと思います。

〇柏崎委員：資料１の１ページに「移動等円滑化の促進」とありますが、心のバリアフリーはもっと広い範囲のような気がします。移動等円滑化に絞ってしまうと本来の心のバリアフリーより狭いと思います。

〇宮崎主任：茅ヶ崎市として考える心のバリアフリーは、下段に示す「心のバリアフリーの４つのポイント」のとおりです。必ずしも移動に限るものではありません。

○藤井副部会長：バリアフリー法の正式名称が「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」であり、限定的な表現となってしまっています。

○鈴木委員：移動等の「等」には何が含まれるのでしょうか。

○宮崎主任：施設の利用が含まれます。

○藤井副部会長：鉄道駅を中心として公的な建物があるとすると、公共交通から建物に至るまでの道路や信号機、施設などを総合的にバリアフリー化していくといったイメージです。

○水島委員：障害者保健福祉計画も関連してきますが、今回は施設利用に関して議論するという理解でよろしかったでしょうか。

○宮崎主任：施設利用と市民への理解促進について検討していきたいと考えています。

○柏崎委員：資料１の２ページ「⑧その他」に「高齢者・妊産婦・乳幼児連れ・けが人・外国人なども日常生活の中で多くのバリア・・・」とあります。市民が日常生活をするうえでバリアと感じることまで広げて考えた方がよいと思います。

○鈴木委員：コミュニケーションも含まれるのでしょうか。

○斉藤部会長：含まれると思います。JR では「声かけサポート週間」を行っていますが、声かけは心のバリアフリーを行ううえで非常に重要です。そういったソフト面も含めての心のバリアフリーと理解いただければと思います。

○篠原委員：何か月も前の話しですが、茅ヶ崎駅で視覚障害の方に声かけしてサポートをしたら、非常にありがたがられた経験があります。茅ヶ崎駅周辺でもコミュニティが希薄化していますが、できることから実践していけると良いと思います。

○斉藤部会長：非常に重要な取り組みだと思います。

○瀧井委員：障害福祉課が差別解消法関連で各団体へヒアリングした結果をまとめた事例集があるので、そちらも参考にすると良いと思います。

○斉藤部会長：ぜひ参考にしてください。

○海津副部会長：心のバリアフリーの実践に向けて、市民がどうしたら気が付くかが重要なポイントであり、市民に対してどういった実践が考えられるか、事業者部会と連携し、情報をもらうなどしながら検討していけるとよいと思います。

○宮崎主任：市民部会で一方的な取り組みを検討するよりも、受け手側を考慮したアプローチを検討するほうが効果があると思いますので、今後検討していきたいと思います。

○斉藤部会長：心のバリアフリーを理解していない人に対して、いかにして当たり前に感じてもらえるかが重要であり、一般市民へのアプローチ方法を議論していく必要があります。

○五十嵐委員：市政情報紙の特集は非常によいと感じましたが、ただ配付しただけでは、その時だけですぐに資源ごみになってしまう家も多かったのではないかと思います。すごくもったいないと感じます。各部所がバラバラな方向に頑張るのではなく、一緒に進めていける取り組みが必要だと思います。また、各団体を通じて広がっていけるような取り組みになると良いと思います。

○斉藤部会長：市政情報紙は非常によい内容なので、これを題材にしながら話し合ったり意見交換したりするなど、きめ細やかな対応が必要になってくると思います。また、庁内での連携もとっていただくようお願いします。

○山本課長補佐：庁内の連携は非常に重要であり、保健福祉部等とは連携した取組を行っていますが、各部所にそれぞれ得意分野があり、その分野を活かしながらバリアフリーに関する取組を進めているところです。本協議会はバリアフリー法に基づく法定協議会であることを考慮すると、「だれもが自由にでかけられる環境づくり」という得意分野を着眼点として、自由活発なご意見をいただくなかでも特にその部分を伸ばしていけるよう引き続きご議論をお願いいたします。

○斉藤部会長：バリアフリーは分野に限定されるものでもありませんので、関連する分野は連携し、議論された内容については庁内で共有する必要があると思います。庁内の横の連携によって、より多くの方への気づきにつながると思います。

○湊委員：小学校や中学校の中には、障害者が通っている学校も多くあります。子どもたちへの理解を深めるためにも、教育委員会の方にも入っていただいた方が幅広い議論ができると思います。

○山本課長補佐：教育の場面も非常に重要ですが、バリアフリーをテーマにすると庁内の多くの課と連携が必要となります。庁内調整会議も別途ありますのでそういった場面で報告するとともに、市民部会で議論が進んだ段階で、関係課をこの場に同席させることなども考えられます。適宜対応していきます。

○海津副部会長：全体像が見えにくいのですが、現時点でどの課が関係しているのか教えてください。

○山本課長補佐：すべてについて今すぐに申し上げることは難しいですが、広報は企画部、まちづくりは都市部、道路整備は建設部、観光は経済部、その他個別の施設になると図書館は文化生涯学習部など様々な部署が関わった結果が冊子に集約されているかたちとなっています。

○海津副部会長：それぞれの部でバリアフリーをテーマにした会議があるのでしょうか。

○山本課長補佐：バリアフリーの協議会とは別で庁内調整会議が開催されています。また、事案ごとに関係部門と打合せレベルで連携しています。

○上杉委員：防災対策課とは特に関わりをもってほしいと思います。移動が大きく関わっ

てくるのは防災であり急を要する課題でもあるので検討をお願いします。

〇斉藤部会長：これから議論を進める中で様々な課題がでると思いますが、その中で特に重要な取り組みには、関係部署も連携して一緒に取り組みを進める必要があると思います。前向きに検討してください。だれもが差別や偏見なく、当たり前に暮らせる社会といったところを念頭に議論を進めていきたいと思いますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。

〇藤井副部会長：バリアフリーのハード整備が進んでも外出する機会が増えるかというと、そういうわけでもありません。外出に何らかの不安を抱えている人に対して、心のバリアフリーをもって安心を与えることでサポートできる取り組みが展開していけるとよいと思います。

（３）意見交換

〇斉藤部会長：意見交換の進め方等について事務局から説明をお願いします。

〇宮崎主任：意見交換の進め方の説明

〇柏崎委員：障害者の方に何をしたらいやな思いをするのかがわからないですが、これが非常に大きな課題であって、当事者の声を聞く事が大切になってくると思います。

〇宮崎主任：該当しない方は、どういったことがバリアになるかなど感じていることも書いていただいて構いません。

〇斉藤部会長：また、客観的に見てバリアだと感じることがあれば、そういったことも書いていただければと思います。

（意見交換シートの整理は別添に示す）

〇１班のまとめ：聴覚障害者に対してマスクをつけたままの対応や、筆談対応してくれといってもやってくれなかったなどのご意見があり、店舗全般で店員の教育が必要だという意見がありました。

また、子どもをあやすのにスマートホンを見せるだけでも冷たい視線があるなど、周りの人の視線にもバリアがあるという意見もありました。

〇２班のまとめ：心のバリアフリーで最も重要なのは「声かけ」であるという話題がありました。高齢者、障害者で困っている立場はそれぞれですが、声をかけることからはじまり、その先の対応は個々人によって変わってくるという話しがありました。

また、バリアフリー教育として、社会福祉協議会では積極的に PR していますがなかなか授業に取り入れることが難しいといった課題があがりました。一

方、視覚障害者団体では小学４年生に対して点字教育を行っており、最近ではそこで教育を受けた小学生や中学生が声をかけ、手を差し伸べてくれる機会があるというお話しがありました。毎年地道に教育を続けていくことによって、そういった行動をとれる学生が増えていると実感しており、そのような取り組みも重要であるという話しがありました。

〇３班のまとめ：必要なのは「理解」なのか「気づき」なのかという話しがありました。当事者の本当の気持ちを理解するのはなかなか難しく、気づいてもらう方が大切ではないかというご意見がありました。一方、知的障害者については、なぜそういった行動をとってしまうのかということを理解することが重要だというご意見もあり、障害の立場によっても感じ方が異なり、すべてが「理解」という言葉でひとくくりにまとめられるわけではないという話しがありました。何が重要かといったときに、普段から当たり前に関わりがあるという状態をいかにつくれるかというご意見が、当事者の方からもそうでない方からもありました。日常的に関われるように、もっと出かけられる社会にしていくことが大切だというご意見がありました。

〇斉藤部会長：「声かけ」、教育を通しての「学び」、「理解」、「気づき」、当たり前の関わり・交流が重要であるという意見であったがそのとおりだと思います。これを当たり前だと思える人をどれだけ増やせるかといった点が重要だと思います。楽しみながら、工夫しながら、一緒に暮らすという社会に向けて、今後も部会では検討していきたいと思います。各班の発表を踏まえ、今後も取組につなげていっていただければと思います。

３ その他

〇特になし

４ 閉会

〇宮崎主任：本日はありがとうございました。今後も市民部会を継続的に行っていきますのでよろしくお願いいたします。第２回の日程等についてはまた後日ご連絡いたします。

部会長署名　斉藤　進

部会員署名　篠原　徳守

別添：意見交換シートのまとめ

心のバリアフリーのことで、これまでに何か「手助けや協力があって助かった、うれしかった」などと感じた経験

記入者	「手助けや協力があって助かった、うれしかった」具体的な内容	場所・場面
篠原　徳守	市民にＰＲの方法として、12 地区有る「まちぢから協議会」に出向いて、小さなブロックでの研修会を開催する。	
篠原　徳守	寄り添い（声かけ）も、一度実行しないとなかなか行動がむずかしい。体験研修なども必要である。	
篠原　徳守	茅ヶ崎駅で点字ブロックから外れた人に、声掛けをして手助けをする事が出きた。	
瀧井　正子	近所の方は、娘の事を気にしていて下さり、声をかけてくれる。「おかえりなさい」など。	
鈴木　実	ＫＡＮＡＣＹＵバス：車内でのアナウンスが増え、注意喚起が多く、安心して乗車出来た。	
鈴木　実	ふれあい学習実施後、小学生が声を掛けてくれ嬉しい。最近はその機会が増え喜んでいる。	
藤井　直人	盲導犬が病院入口とは反対方向に歩き出したので声かけして、行先は病院入口と確認して、その方向に誘導	④
藤井　直人	車いす固定装置が故障して、車いすが動けなくなったので解除方法を運転手に指導した	②
柏崎　周一	電車の中で席をゆずられた事→ことわり、申し訳なかった	①②
柏崎　周一	自転車で転んだ時、青年がすぐかけ寄ってくれた	④
柏崎　周一	気分悪く座っていた時、何気なく声をかけられた時	⑥
柏崎　周一	丁寧な案内	⑧
柏崎　周一	“ボーっと”していたら、子どもに声をかけられた。そばにいたお母さんがすすめていた模様	⑨
高野　幸子	電車に乗る時、ホームと電車の間があり、それに増して電車が高く、車いすを持ち上げられなかった時、回りの男性が助けて持ち上げてくれたこと。	①
高野　幸子	車いすトイレがふさがっている時、男性トイレに車いすの息子を一人で行かせたら、他の男性が見ていてくださり、「大丈夫ですよ」と答えてくださいました。	⑤

記入者	「手助けや協力があって助かった、うれしかった」具体的な内容	場所・場面
水島　修一	ボランティア講座、研修等、多くの方が参加し、熱心に取り組んでいただける	
水島　修一	福祉教育に多くの小中学校の児童生徒が参加していただける	
長　貴史	声をかけてくれた	
長　貴史	イベントをする	
上杉　桂子	最近は車いすの人があたりまえに電車に乗る姿をよく見かける。乗車口に板をおき、スムーズに乗降している。	①
上杉　桂子	ディズニーランドは割引がないが、ゲストアシストカードなど、障害者が障害のない人と同じように楽しめる配慮がある。	⑨
海津ゆりえ	目が不自由な方の肘をもって誘導している人がいる時、よかったと思う。	⑩横断歩道
海津ゆりえ	１人で頑張ってバス乗降する高齢者や障害者を手助けする人を見る時、よかったと思う	②
海津ゆりえ	観光地で、誰にでもあいさつする子供達の姿	⑩
海津ゆりえ	観光地で、足が不自由な観光客の手を引いてあげる子供達（鳥羽市で）	⑩
海津ゆりえ	伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの存在	⑩
海津ゆりえ	全員が着席するまで発車をまつバス	②
五十嵐優子	高齢の親と電車に乗った際に、席を譲ってもらった。その行為も助かったが、「気付きませんで…」と声をかけてもらったことがうれしかった。	①
五十嵐優子	エレベーターや電車の乗り降りなど、ベビーカーの際に、さっと手をかしてくれる人が増えていると感じる。	①②⑦
五十嵐優子	観光地へ行った際に、さわれる仏像があり、視覚障害の方に良いと思った。	⑩寺院
五十嵐優子	京都でバス停に、バスが近づいていることを電光表示（No.で）してあり、わかりやすく、誰にも便利だと思った。外国人も多いので。	⑩②
湊　里香	ナナコカードを紛失したので、受付で代わりに電話してもらった。	⑩
湊　里香	バス運転手の「ありがとう」の手話が嬉しかった。あいさつだけでも覚えてほしいと思う（マック、ミスド、ラスカなど）	

記入者	「手助けや協力があって助かった、うれしかった」具体的な内容	場所・場面
湊　里香	市の手話講習会で手話を学ぶ人が毎年増え、聴覚障害に対する認識が広がっていくことは嬉しい（ぜひ、市職員も学んで来て下さい）	
湊　里香	保育園で絵本のよみきかせ（手話）、小学校、中学校、出前講座をとおして、手話の魅力、楽しさを伝えることができた。「耳がきこえないことって何？」を伝えることができた。	
瀬川　直人	話を聞いてくれた、わかってもらえたと感じられた。	
瀬川　直人	病者、障害者でない対応（扱い）をしてもらえた（挑戦、失敗をさせてもらえた）	
瀬川　直人	行政手続き書類などが難しい。付き添い	⑤

心のバリアフリーのことで、これまでに何か「手助けや協力がなくて困った、悲しかった」などと感じた経験

記入者	「手助けや協力がなくて困った、悲しかった」具体的な内容	場所・場面
斉藤　進	駅のエレベーターの優先利用の問題。われ先に“元気な人”が利用することの問題	①
斉藤　進	小学校でバリアフリー体験教室を開催しているが、学校によって担当教諭の問題意識に大きな差があること	⑩
斉藤　進	どうみても元気なドライバーが車イス用駐車場に車を止めているケースあり	⑦
斉藤　進	「みんなのトイレ」、「誰でもトイレ」の設置で車イスの人がなかなか利用できない現状もあり	⑩トイレ
瀧井　正子	私の娘（知的障害、手帳Ｂ１）の事です。彼女は、自力で平塚市まで通勤しており、特例子会社に就労していますが、帰り、茅ヶ崎駅のお店で、小さなオヤツを買う事を楽しみにしています。ある日、そのお店で万引と間違われて（一般市民の方に）警察に連れて行かれた事がありました。レシートを持っていて、間違いと分かり帰されましたが、本人はとても傷つき、親も驚きました。その市民の方が、少し障害の方の事を知っていたら、娘の行動も理解できたかと思うと、私達親も、もっと理解してもらう努力をしないといけないと反省です。	

記入者	「手助けや協力がなくて困った、悲しかった」具体的な内容	場所・場面
瀧井　正子	会員の方のアンケート調査でも、電車やバスの中で心ない言葉を言われた事もあるが、反対に親切にしてもらった、助けられたという事もあるので、やはり知ってもらう、理解してもらうのが、最初の一歩だと思います。自分自身の事を考えても、知的障害の事は少しは分かっても、お年寄りの不便さや、他の障害の方の生きにくさは、今ひとつ、しっかりと分かっていないと思います。	
鈴木　実	立川昭和公園下見に於いて、美術館・水・ご料車・昔の客車（鉄道）、触る事が出来ない場所が多い	
鈴木　実	町を歩いている時、誰かに助けを求めたくても、どこに人がいるのかわからない。点字ブロックに自転車が置かれ、若者がタムロしている。	
鈴木　実	映画鑑賞時、副音声設備が広まってほしい。ＮＨＫＴＶなど緊急放送時、未だに音声が出ない。信じられない!!	
鈴木　実	当事者も外出時には自ら声を出し、又、ヘルプを求めていない時にもチョット声掛け・小さな節介・断られた時（不要と云われた時）勇気	
藤井　直人	【視覚障害、障害高齢者、認知症者】への駅員の優先席/エレベーターでの積極的な声かけがあまり見られない	①
藤井　直人	バス車内における知的障害者の振る舞いに対する運転手の対応が不適切	②
藤井　直人	バスでの車いす固定が徹底されていない。事故時には車いすと乗車者がひどいことになる場合がある	②
藤井　直人	電車内の車いす指定場所に乗客が立っていたが、車いす利用者が乗車してもどかなかった	①
柏崎　周一	シルバーシートに若者が全部座っていた。その時は非常に座りたかった／優先席	①②
柏崎　周一	「じじい、邪魔だ」と自転車に乗った青年から脅かされた。それも歩道で。自転車のマナーの悪さや放置自転車が目立つ。	④
柏崎　周一	質問の時、ぶっきら棒の受け答え	⑤
柏崎　周一	障害者に対する先入観、誤解。逆にはれ物にさわるような仕草	⑧

記入者	「手助けや協力がなくて困った、悲しかった」具体的な内容	場所・場面
柏崎　周一	どこまで助けていいのか。つき添いの人はどう感じているのか	⑨
柏崎　周一	障害者に対して何がバリアか、どこまで行っていいのか？声かけのタイミング	
高野　幸子	茅ヶ崎駅南口から南湖のコミバスに車いすを乗せようとしたら、「このバス、お年寄りがたくさんのるから遠慮してほしい」と言われました。	②
高野　幸子	横浜駅でエレベーターを使用したかったのですが、健常者が多く、なかなか乗れなかったこと	①
水島　修一	高齢化でリタイアする方もあり、全体的に広がっていかない	
水島　修一	時間をとることが困難となってきている	
長　貴史	転んで車イスがころがってまわりに人がいなかったことも	
長　貴史	もっと講座をひらく	
上杉　桂子	Suica カードの障がい者用が定期しかないため、いちいちみどりの窓口に行ったり、子ども料金の自販機で買わなければならない。障がいのない人のように suica で自由に乗り降りしたい。路線バスから降りる時、運転手に障害者手帳を見せてから定期の suica をかざさないといけないが、そのタイミングをのがすとうしろに並んでいる人から冷たい目で見られる。	①②
上杉　桂子	自転車のレーンが（ブルーにぬられたところ）途中で切れていたり路駐があったりしてわかりにくいため（変則的すぎる）走りにくい。	④
上杉　桂子	イオンのように一番高い見えやすいところに「市役所」や「文化会館」などが大きく表示されているとわかりやすい。また入口にも大きな表示がほしい。	⑤
上杉　桂子	医師や看護師に発達障がいの理解がなく、パニックをおこしてしまう本人に対し、治療拒否がある。また、障がいがあると言っただけで治療拒否にあうこともある。	⑥
上杉　桂子	商品を見ていると店員にカタログを渡され、「これあげるからもう来なくていいよ」といわれた。カメラを持っていたら女子店員が盗撮と誤解されて「退店しろ、二度とくるな」と	⑧

記入者	「手助けや協力がなくて困った、悲しかった」具体的な内容	場所・場面
	言われた。（店長）	
上杉　桂子	遊園地のアトラクションで知的障がいがあると告げると乗せてもらえない場合がある。	⑨
上杉　桂子	障がいの特性を「わがまま」「乱暴」「気持ちが悪い」と表現する人が多くいた。	⑩
海津ゆりえ	歩き方が遅い方の脇をすり抜けて先を急ぐ。怖さを覚えたのではないか。	⑩まち中
海津ゆりえ	バスの乗降が遅い方（足が不自由？）に向けて溜息や舌打ちをする人がいる時	①②
海津ゆりえ	料金の支払い、きっぷの購入などに不自由な方が１人でいる時、手伝った方がいいのかどうか？	①②
海津ゆりえ	車内やまち中で大声で独り言を言っている人が近くにいる時、どうするべきなのか？返事した方がいい？	
海津ゆりえ	自動走行車椅子で移動する方がいる時、余りに大げさな対応をする駅員を見ると、（失礼では？）少々疑問に思う。	①
五十嵐優子	電車内などで、子どもにスマホを持たせて静かにさせている人が増えているが、その姿を批判的な目で見ている人がいる。様々な状況があると思うので、一方的な見方をしないでほしい。	①②⑤⑥⑦⑨
湊　里香	パン店で、マスクをしていた店員に話しかけられ、「耳がきこえないので筆談して下さい」と身ぶり手ぶりで答えたのに、マスクをはずさない、筆談しない対応に悲しく思った。	⑩
湊　里香	パンフレット、タウンページなどには FAX 番号が記されてなく、誰かに電話をお願いしなければならない。	
湊　里香	クレジットカードなど、身分証明を確認するのに本人の声が必要…	
瀬川　直人	病気の理解をしてもらえない	⑩家族 etc
瀬川　直人	自分の気持ちや状態をうまく伝えられない	⑤⑥
瀬川　直人	夜間はどこにも相談できるところがない	
瀬川　直人	草刈りをしていたら通報された。	⑩自宅
瀬川　直人	女性のポスターを見ていたら通報された。	⑦

その他の意見

記入者	「手助けや協力があって助かった、うれしかった」具体的な内容	内容
鈴木　実	福祉先進国のモデルケースを知りたい（障害者がいかに生活しているか）他に如何なるサービスがあるか知りたい	知りたいこと